

第 43 回 高輪築堤調査・保存等検討委員会（部会③）

開催記録

1 開催概要

- 日 時：令和6年5月8日（水）10：00 ～ 11：30
- 場 所：JR 東日本現地会議室
- 出席者：

表 出席者一覧

委員長	・ 谷川 章雄氏（早稲田大学 人間科学学術院 元教授）
委員	・ 老川 慶喜氏（立教大学名誉教授） ・ 小野田 滋氏（鉄道総合技術研究所 アドバイザー） ・ 古関 潤一氏（東京大学名誉教授・ライト工業株式会社 R&D センター テクニカルオフィサー）※オンライン参加
オブザーバー	・ 文化庁文化財第二課 史跡部門 ・ 港区教育委員会事務局 教育推進部 図書文化財課 ・ 港区 街づくり支援部 ・ 東京都 教育庁 地域教育支援部 管理課 ・ 鉄道博物館 学芸部 ・ JR 東日本コンサルタンツ株式会社 ・ 東日本旅客鉄道株式会社 構造技術センター ・ 東日本旅客鉄道株式会社 グループ経営戦略本部 品川・大規模開発部門 ・ 東日本旅客鉄道株式会社 建設工事事部
事務局 東日本旅客鉄道(株)	・ 東日本旅客鉄道株式会社 グループ経営戦略本部 品川・大規模開発部門 ・ 東日本旅客鉄道株式会社 建設工事事部
サポート	・ パシフィックコンサルタンツ株式会社

■ 当日配布資料

1) 議事録確認

- ・ 次第
- ・ 資料1：第42回委員会（4/10）部会①議事録案
- ・ 資料2：第42回委員会（4/10）部会③議事録案

2) 部会③

- ・ 次第
- ・ 資料1：調査成果について

2 議事要旨

2.1 議事録確認

(1) 開会

- 第 43 回 高輪築堤調査・保存等検討委員会を開会する。(事務局)

(2) 議事録確認

1) 第 43 回委員会 (4/10) 部会①の議事録確認

- 修正指摘なし。(委員一同)

2) 第 43 回委員会 (4/10) 部会③の議事録確認

- 修正指摘なし。(委員一同)

2.2 部会③

(1) 開会

- 第 43 回 高輪築堤調査・保存等検討委員会の部会③を開会する。(事務局)

(2) 調査成果について

- 資料 1 について説明する。(港区)

＜調査成果について以下の点を説明＞

- 今回の報告は雑魚場架道橋の仮設アンカー部、仮橋脚部 6 箇所のライナープレートによる試掘調査結果となる。
 - 雑魚場架道橋は第 2 期の橋台に対する 8 箇所の仮設アンカー設置に当たり、 $\phi 42\text{mm}$ 深さ 46cm までを穿孔してコアを採取した。
 - いずれも上層部にコンクリートが検出され、その下にモルタル、石と続く。
 - 今回は柱状図の作成だが、今後もアンカー部の調査等を踏まえて所見をまとめたい。
 - 仮橋脚部については、6 箇所それぞれ矩形ライナー 4 段分の調査を行った。
 - KP28-3 で石①、KA2-3 で石②が検出された。
 - KA2-3 の 4 段目の赤線より上の暗灰色粘土層より下にある黄褐色粘土層が薩摩台場の盛土と考えている。
 - 暗灰色粘土層が一部深い箇所が、重ね図より舟入の場所に当たるのではないかと考えている。
- 雑魚場架道橋のコア抜きの結果は、かつての橋台に対して補修がどう行われてきたか、

また、当初の橋台の残存状況を把握するための重要なデータとなる。今後もアンカー打設が進められるので、特に古い時期と想定される橋台の石材がどのようなになっているかは興味深いので注目していきたい。（委員長）

- 仮橋脚部の結果により、薩摩台場の様相がだいぶ分かってきたという印象である。明治20年地図に描かれている舟入があったと推測される場所が、暗灰色粘土が深い箇所ではないかと考えられる。それを支えるデータとして石①があるが、これは大型の加工石であり舟入に降りるための階段ではないかと考える。ボーリングでは石が確認されていないため、階段の最下段に当たるのではないかと推測している。いずれにしても、この部分は舟入の遺構が伸びていて、舟入に降りていく階段、またはそれに伴う護岸のようなものがあるというのが、今後の見立てとして正しいのではないかとと思われる。一方でKP27-2で検出された支障物については、今後調査を行っていくということである。（委員長）

← KP27-2の支障物については、調査を進めており今後改めて報告する。（港区）

- 今後の調査は舟入を捉えていくような検討が必要である。思いがけず舟入と思われる遺構に現段階で当たったことは、先の見通しが立てやすいため、よかったと思う。また、石②は大型の割石だが、上手く取り出せたということで、この箇所についての調査は終了していると認識する。（委員長）
- 仮橋脚部の調査範囲については、いずれは仮土留めを打設し最終的には掘削となるが、まずは仮橋脚杭を打ち工事桁をかけるという工事工程があるため、試掘調査が完了した4箇所は、調査結果を踏まえて杭の打設を可と判断したい。（委員長）
 - ← 異論なし。（委員一同）
- 引き続き試掘、ボーリング調査が必要な状況であるが、できるだけ効率的に進めていきたいので、協力をお願いしたい。（委員長）

（3）その他

- 4月10日の前回委員会議事録について、部会①と部会③のそれぞれの最終ページに同じ文化財行政のコメントが載せてあるので、部会①の方は削除してよいのではないかと。（港区）
 - ← ホームページがそれぞれの部会で異なっているため、終了後のコメントは各部会共通のものを入れるというルールで進めている。（事務局）
 - そのような事情であれば、このままでよい。（港区）
- 部会③について、4本の杭施工着手について感謝申し上げる。今後も調査に対するご指導をお願いしたい。（JR）
- 港区に置かれては、夜間の試掘調査に立ち会っていただいていることに感謝申し上げる。（JR）
- 3月の委員会の記録保存に対する当社の対応として、4月15日にプレスリリースを行

った。引き続き広範囲にわたり工事が進むため、試掘箇所や方法についてご指導いただけると幸いである。(JR)

＜部会②・部会③終了後＞

- 最後に文化財行政からコメントをもらう。
 - ← 特にコメントはない。(文化庁)
 - ← 前回委員会で3月18日付で旧東海道護岸の板柵箇所について、周知の埋蔵文化財包蔵地に登載した旨を報告したが、その内容が本日ホームページにアップされたので確認してもらいたい。また、今後調査成果がまとまればアクセス線の部分についても面的な範囲指定が必要と考えている。(東京都)
 - ← アクセス線調査はイレギュラーな勤務が続いているので留意している。港区も共催して行う開業前年祭について、天候に恵まれることを祈っている。(港区)

(4) 閉会

- 次回委員会は6月5日(水)10時00分より、会場はTKP ガーデンシティ PREMIUM 品川高輪口を予定する。本日はこれで閉会とする。(事務局)

3 議事録

3.1 議事録確認

(1) 開会

- (事務局) 第 43 回 高輪築堤調査・保存等検討委員会を開会する。
- ・ 挨拶
 - ・ 資料確認
 - ・ オンラインの案内
 - ・ 次第説明

(2) 議事録確認

- (事務局) 2つの議事録について修正等の指摘はあるか。修正等があれば委員会終了までに連絡をいただきたい。
- (事務局) 意見がなければ、議事録確認を終了する。

3.2 部会③

(1) 開会

- (委員長) 次第に沿って進める。

(2) 調査成果について

- (港区) 資料 1 について説明する。雑魚場架道橋の仮設アンカー部、仮橋脚部 6箇所のライナープレートによる試掘調査結果となる。8箇所の仮設アンカー設置に当たり、 $\phi 42\text{mm}$ 深さ 46cm までを穿孔してコアを採取した。場所としては雑魚場架道橋の第 2 期の箇所となる。北側（東京方）、南側（品川方）いずれも上層部にコンクリートが検出されている。コンクリートの下は、モルタル、石と続く。石は全て安山岩だが、仮山内 3b のみ御影石が検出された。資料 1-3 で棒状に青塗した 8 本が仮設アンカーの位置である。現時点では柱状図を作成しただけであり、今後もアンカー仮設があるので、その部分も含めて所見をまとめていきたい。資料 1-4 で仮橋脚部 6箇所の調査位置を示す。6箇所それぞれ矩形ライナー 4 段分の調査を行った。KP28-3 で石①、KA2-3 で石②が検出された。石②はプレート設置のために取り出して確認したところ、大きさは最大長 60cm 程度となり、間知石ではないが自然石よりは少し加工された印象を受けた。取り出した石②は保管しているので、調査はしようと思っている。資料 1-5 で石①の説明をする。

石①については、石②と同様に4段目から検出された。大きさは、長軸が山側に50cm以上続いていて、短軸は28cm、厚みは41cmの長方形であり、角が綺麗に面取り成形された明らかに加工された石である。資料1-6に口元管ライナープレートの調査成果として、写真をつなぎ合わせた土層断面図を整理した。赤線で囲う範囲が、緻密で混じり気のない暗灰色の粘土層である。KA2-3の4段目の赤線より上の暗灰色粘土層より下にある黄褐色粘土層が薩摩台場の盛土と考えている。資料1-7に柱状図を整理した。以前の委員会でNo.10・11の橙色の線より下が薩摩台場の盛土と報告したが、これとKA2-3の黄褐色粘土層は類似するものとする。赤枠で囲った範囲が資料1-6で説明した暗灰色粘土層に該当する。KP28-2、KP28-3は他より少し粘土層が深くなっているが、明治20年の「東京実測図」で、赤丸で囲っている部分に舟入と思われる構造物が描かれているが、もしかしたらそこに当たるのではないかと考えている。

(委員長)

質問、意見はあるか。

(委員長)

雑魚場架道橋のコア抜きの結果については、かつての橋台に対して補修がどう行われてきたか、また、当初の橋台の残存状況を把握するための重要なデータとなる。今後もアンカー打設が進められるので、特に古い時期と想定される橋台の石材がどのようなになっているかは興味深いので注目してきたい。仮橋脚部の調査により、薩摩台場の様相がだいぶ分かってきたという印象である。資料1-7にある明治20年地形図に描かれている舟入があったと推測される場所が、暗灰色粘土が深い箇所ではないかと考えられる。それを支えるデータとして、KP28-3で検出された石①がある。これは大型の加工石であり、舟入に降りていく階段ではないかと考える。ボーリングでは石が確認されていないため、階段の最下段に当たるのではないかと推測している。いずれにしても、この部分は舟入の遺構が伸びていて、舟入に降りていく階段、またはそれに伴う護岸のようなものがあるというのが、今後の見立てとして正しいのではないと思われる。一方、KP27-2で検出された支障物については、今後調査を行っていくということである。

(港区)

KP27-2の支障物については矩形ライナーから、より深くまで掘れる円形ライナーに変更して現在調査を進めている。今後改めて報告する。

(委員長)

今後の調査は舟入を捉えていくような検討が必要である。思いがけず舟入と思われる遺構に現段階で当たったことは、先の見通しが立てやすくなるためよかったと思う。また、石②は大型の割石だが、上手く取り出せたということで、この箇所についての調査は終了していると認識する。このとりまとめに基づけば、既に口元管の調査が終わっているKP27-3、KP28-2、KA2-2、KA2-3については、杭の打

設が可能と考える。この範囲については、いずれは仮土留めを打設し最終的には掘削となるが、まずは仮橋脚杭を打ち工事桁をかけるという工事工程があるため、試掘調査が完了した4箇所は、調査結果を踏まえて杭の打設を可と判断したい。

(委員一同)

異論なし。

(委員長)

引き続き試掘、ボーリング調査が必要な状況であるが、できるだけ効率的に進めていきたいので協力をお願いしたい。

(委員長)

他に何かなければ、次に進める。

(3) その他

(委員長)

その他は何かあるか。

(港区)

4月10日の前回委員会議事録に戻るが、部会①と部会③のそれぞれの最終ページに同じ文化財行政コメントが載せてある。部会①の方は削除してよいのではないか。

(事務局)

ホームページがそれぞれの部会で異なっているため、終了後のコメントは各部会共通のものを入れるというルールで進めている。

(港区)

そのような事情であればそれでよい。

(委員長)

その他は何かあるか。

(JR)

部会③について、4本の杭施工の着手について感謝申し上げる。今後も調査に対してご指導をお願いしたい。港区に置かれては、夜間の試掘調査に立ち会っていただいていることに感謝申し上げます。4月15日にプレスリリースを行った。内容は3月の委員会の記録保存に対する当社の対応を示したものとなる。引き続き広範囲にわたり工事が進むため、試掘箇所や方法についてご指導いただけると幸いである。

(委員長)

他になければ部会③を閉会する。

<部会②・部会③終了後>

(委員長)

最後に文化財行政からコメントをもらう。

(文化庁)

特にコメントはない。

(東京都)

本日部会①がないため、この場で報告する。前回委員会において3月18日付で旧東海道護岸の板柵箇所について、周知の埋蔵文化財包蔵地に登載した旨を報告した。その内容が本日ホームページにアップされたので確認してもらいたい。また、今後調査成果がまとまればアクセス線の部分についても面的な範囲指定が必要と考えている。港区と協力して進めていく。

(港区)

アクセス線の調査は、かなりイレギュラーな勤務が続いているので留意しているところであるが、引き続き事業者と協力して進めていきたい。また、本日の新聞記事にもあったが、高輪ゲートウェイ駅前で開

業の前年祭が開かれる。港区も共催ということで参加するが、天候に恵まれることを祈っている。

(4) 閉会

(事務局)

次回の定例委員会は、6月5日(水) 10 時 00 分から、会場は TKP ガーデンシティ PREMIUM 品川高輪口を予定する。本日はお忙しい中貴重なご意見をありがとうございました。閉会とする。

以上